

➤ エンジンの異音

最近のトラックは、モニター画面でエンジン異常を知らしてくれるので、異音が出るまでに修理工場で調べて修理になりますが、それでも普段のエンジン音を頭に入れておくことは、遠方とか、山の中とかでの故障を防ぐためにも大切なことかと思えます。

➤ ミッションの異音

エンジンと違って、ミッションは以前から踏みしろとか、つながり方とか、すべり具合とかによってクラッチ板の減り具合を察知する方法を取ってきました。それとは別にクラッチそのものを動かすためのマスターシリンダーの油圧不足とかによってクラッチ板が切れないことがあります。クラッチの故障の時には、本体と、マスターシリンダー両方の動きをチェックする必要があります。

➤ ブレーキの故障？ランプについて

ほとんどの車には、全輪の横滑りを察知してこれを防ぐためにABSというブレーキの補助装置がついています。

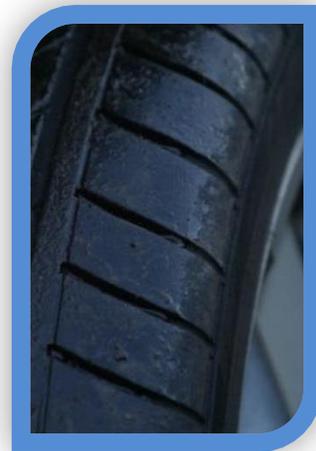
これとは別に、特にUD車では、モニター画面にEBSランプが点灯するときがあります。これはとても危険ですので速やかに、安全に停止をして、直ぐに停まれるスピードで安全な場所まで移動してください。

このEBSランプの異常はブレーキの制動倍力装置の故障を意味するもので、昔の hidro ブレーキブースターが無い状態なのでどれだけ力いっぱいブレーキを踏んでも5分の一の力しか伝わっていないので、止まらなくて当然ですね。

今の車についているブレーキの電子制御ではなくなるので、昔の足踏みブレーキの hidro ブースターなしだと思って対応してください。

➤ ラジエターの異常

ラジエターの異常は、温度計によって知ることが出来ます。普段の温度をよく知っておいて、少しでも温度が上がったままとか、下がったままとかの場合には修理点検が必要となりますので、普段から、ラジエターキャップの裏面のサーモスタット部分の清掃とかに気を付けての整備をお願いいたします。



➤ タイヤの点検

特に夏季期間は、前輪タイヤをそのままの状態です3か月以上走行してしまうと片べりから、(段べり)波うちべりになりローテーションもできないようになり、1本丸ごと取り換える必要になり、不注意からの不経済が発生することになり、3か月を限度としてのタイヤローテーションを必ず行うようにしてください。



➤ ボディの損傷防止の為に

ボディの損傷で修理が難しいのがアルミの横煽りです。特に煽りを開けるときに傷がつきますので、現場の作業員の方に開けてもらうことが無いように先に段取りをすることも大切かと思えます。

又ユニック作業時にも荷物で傷をつけないように気を付けて煽りを切っておくように心がけてください。

その際に積み込んでいる機械が滑って落ちないように気を付ける必要があります。

➤ バッテリーの盗難が増えています

最近になりバッテリーの中の重金属を狙ってのバッテリー本体の盗難事件が起きています。まとめてとられるので、朝の始動時に大騒ぎになります。

トラックを止めるときにバッテリー側に出来ればあまり空間を作らないようにするとか、逆に外からよく見えるようにするとかして気を付けてください。



➤ ユニック車の盗難が続いています

ユニック車は機材の窃盗に使うためとか、以前から盗難事故が多発していますが、私たちに出来ることは、ハンドルロックとか、アウトリガーの張り出しにより犯行に時間が掛かるようにするとか、道路沿いに止めるときには、道路対

して縦に止めて、死角を作らないようにするとか、照明が良くあたるように工夫するとかするしかありませんが、常に盗られるかもという緊張感を持って工夫をしてほしいと思います。

